

社会技術研究開発事業
平成22年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム「科学技術と社会の相互作用」

研究開発プロジェクト名

「政策形成対話の促進：

長期的な温室効果ガス（GHG）大幅削減を事例として」

研究代表者 柳下 正治

（上智大学大学院地球環境学研究科、教授）

1. 研究開発プロジェクト名

政策形成対話の促進：長期的な温室効果ガス(GHG)大幅削減を事例として

2. 研究開発実施の要約

①研究開発目標

本研究開発プロジェクトは、科学者／専門家と社会の構成員（ステークホルダー（SH））の参加の下に推進する。

主目標：

- ・長期的な温室効果ガス（GHG）の大幅削減に向けて、科学と社会の間、及び社会の中での熟慮と対話に基づく、社会的意思の形成のための場・機能の開発・提案
- ・熟慮及び対話の社会実験研究・「低炭素社会づくり『対話』フォーラム」の開催

副目標：

- ・長期GHG削減シナリオを通じた、複数領域の科学者の協働（知の結集の可能性の検証）
- ・科学とSH間、及びSH間での意味ある対話を可能とする参加的手法の開発・提案
- ・WWViewsプロジェクトとの連携

②実施項目・内容

- ・対話フォーラムの開催及びその運営管理
- ・科学とSH間及びSH間の応答を通じた社会的意思の形成に資する仲介機能の検討と提案
- ・欧米における市民参加プロセス研究
- ・我が国の政策・戦略策定における参加プロセス研究
- ・政策形成プロセスに対する新しい参加システムの実装事例研究
- ・対話方法論・ツールの開発並びに評価の在り方に関するシステム論的、政策科学的検討
- ・対話フォーラムにおいて利用可能な方法論・ツールの検討
- ・対話フォーラムの方法論的妥当性の評価
- ・「地球温暖化問題」という多様で独自性のある問題構造を考慮しながら、社会的実装ツールにおける科学者の役割を考察するための研究

③主な結果

対話フォーラムは、平成21年度にフェーズ1及びフェーズ2までの工程を終了し、SH間で今の段階から議論を深めておくべき討議テーマとして、テーマ1「エネルギー供給のあり方：2050年に再生可能エネルギーをどこまで増やすべきか」、テーマ2「低炭素社会に向けたライフスタイルのあるべき姿」の2つが選定された。

今年度フェーズ3を迎えた対話フォーラムにおいては、この2テーマの下に本格的なSH間の徹底討議を行い、「意見構造の明確化」を目標として実施した。

テーマ1は最終回の第5回会議を残すのみ（東日本大震災の影響で開催延期）、テーマ2は年度内に全4回の会議を終了している。各テーマともに、次年度にかけて、数名の参加SHで構成する「起草委員会」を立ち上げ、討議結果を取りまとめていく予定であり、23年度6月頃をめどに報告書をまとめるとともに、引き続き対話フォー

ラムの事後評価等へと展開していく。

また、対話フォーラムの推進とともに、その成果の分析・評価及びその社会への実装を念頭に、提案すべき社会的意思の形成に資する場と機能に関する提案を補強するための関連領域の内外の動向の把握・分析や先行事例研究、実装に向けての戦略研究活動を開始している。23年度に実施する対話フォーラムの評価、及び対話の場・機能の提案・実装に資するべく、引き続き実施していく。

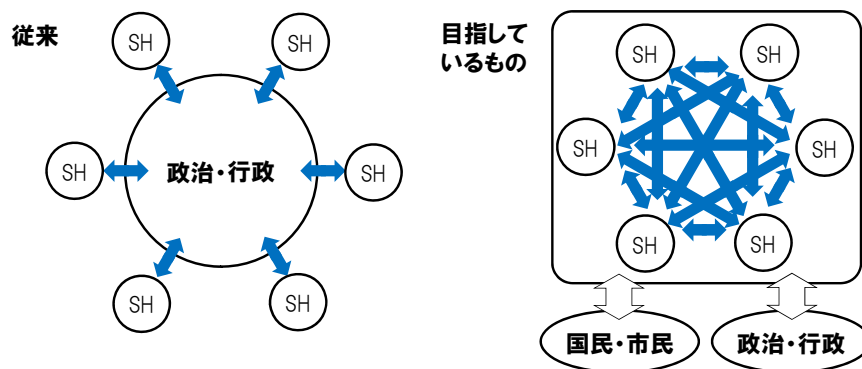
3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

本研究開発プロジェクトは、科学者／専門家と社会の構成員（ステークホルダー（以下、SH））の参加の下に推進する。本プロジェクトの目標は、重点を置く主目標と、副次的な副目標からなる。

主目標：長期的な温室効果ガス（以下、GHG）の大幅削減に向けて、科学と社会の間、及び社会の中での熟慮と対話を通じて、そこから得る結果を社会に発信し広く国民的議論を喚起する、あるいは公共的意思決定への有用な参照情報とすることができるような場及びその機能を開発・提案する。その熟慮及び対話の社会実験の場・機会として「低炭素社会づくり『対話』フォーラム（以下、対話フォーラム）」を開催する。

- ①長期GHG大幅削減に係る熟慮と対話に基づく社会的意思の形成のための場・機能の開発・提案
- ②社会実験研究・対話フォーラムの開催



〈SHの参加に基づく、熟慮と対話の場のイメージ〉

副目標：上記の主目標を達成する過程では、いくつかの重要課題に挑戦し、クリアしていくことが不可欠であるが、以下を副目標として掲げて研究開発プロジェクトを進めることとする。

- ①長期GHG削減シナリオを通じた、複数領域の科学者の協働（知の結集の可能性の検証）
- ②科学とSH間、及びSH間での意味ある対話を可能とする参加的手法の開発・提案
- ③WWViewsプロジェクトとの連携

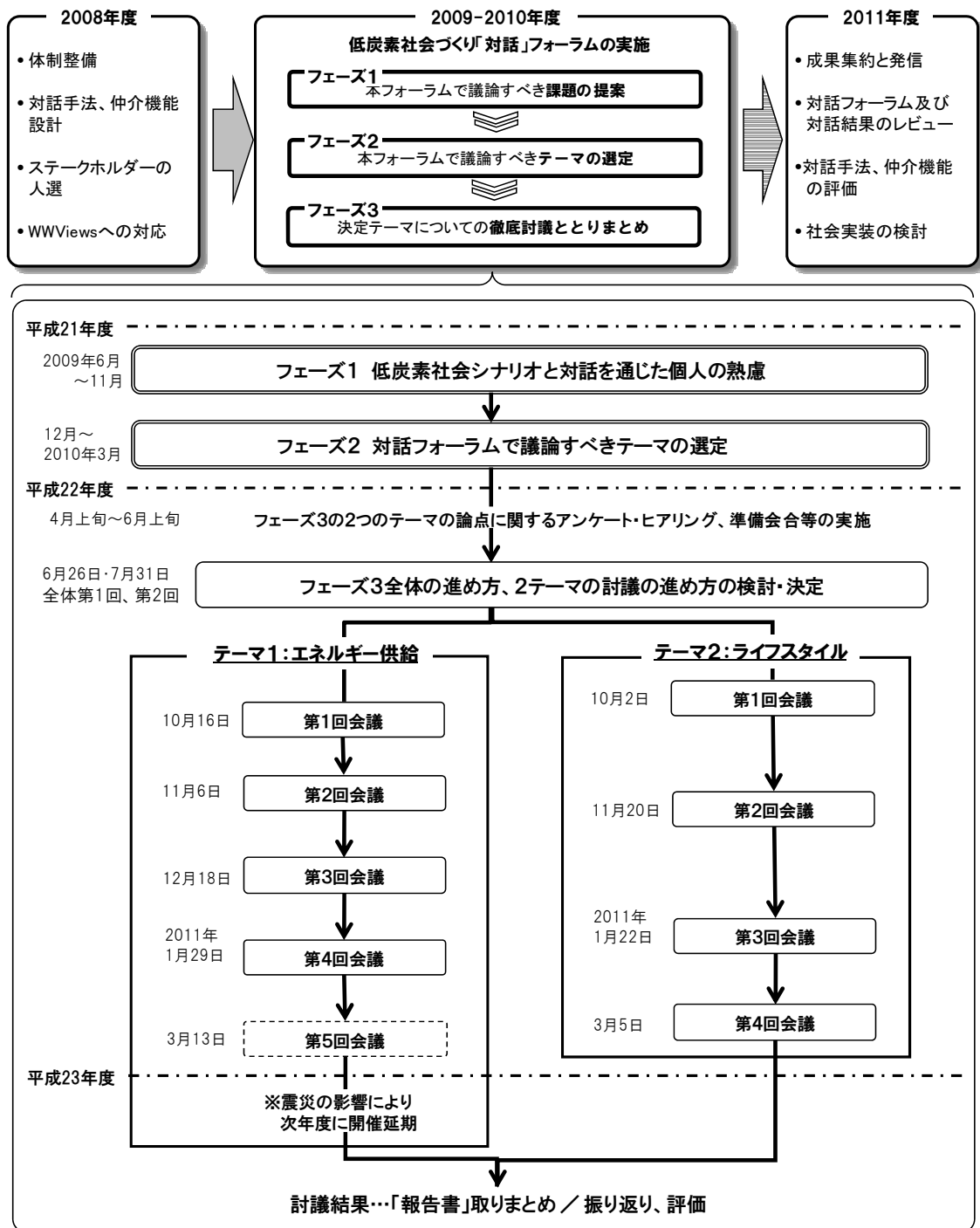
(2) 実施方法・実施内容

社会実験研究「対話フォーラム」の運営・実施

- ①対話フォーラムの開催及びその運営管理（政策・制度/実装戦略研究グループ）
- ②科学とSH間及びSH間の応答を通じた社会的意思の形成に資する仲介機能の検討と提案（政策・制度/実装戦略研究グループ）
- ③対話フォーラムにおいて利用可能な方法論・ツールの検討（対話方法論研究グループ）
- ④対話フォーラムの方法論的妥当性の評価（対話方法論研究グループ）
- ⑤「地球温暖化問題」という多様で独自性のある問題構造を考慮しながら、社会的実装ツールにおける科学者の役割を考察するための研究(政策対話の実装に向けての科学者参加の研究グループ)

熟慮と対話に基づく社会的意思の形成のための場・機能の開発に資する研究活動

- ⑥欧米における市民参加プロセス研究（政策・制度/実装戦略研究グループ）
- ⑦我が国の政策・戦略策定における参加プロセス研究（政策・制度/実装戦略研究グループ）
- ⑧政策形成プロセスに対する新しい参加システムの実装事例研究（政策・制度/実装戦略研究グループ）
- ⑨対話方法論・ツールの開発並びに評価の在り方に関するシステム論的、政策科学的検討（対話方法論研究グループ）



（平成22年度実施の対話フォーラム フェーズ3の構成）

（3）研究開発結果・成果

本研究開発プロジェクトは、3年目にして転換期を迎えた。研究開発の進め方において、包括的に述べてみれば以下のとおりである。

【目標達成型研究の強化】

社会実験の対話フォーラムが軌道に乗り、その成果の分析・評価及びその社会への実装を念頭においた研究に重点をおくことが必要である。具体的には、本研究開発プロジェクトとして提案すべき社会的意思の形成に資する場と機能に関する提案を補強するための関連領域の内外の動向の把握・分析、先行事例研究を行うと共に、実装に向けての戦略研究に重点を移すことが必要である。

【低炭素社会づくり「対話」フォーラムの実施】

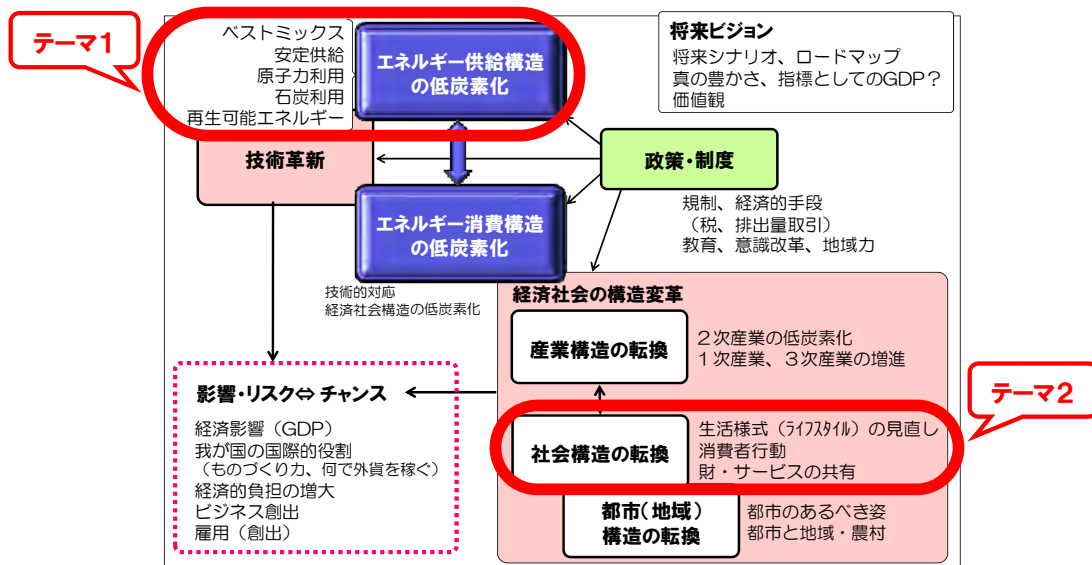
対話フォーラムは、平成21年度にフェーズ1及びフェーズ2までの工程を終了し、SH間で今の段階から議論を深めておくべき討議テーマとして、以下の2つテーマが決定した。

テーマ1 エネルギー供給のあり方

：2050年に再生可能エネルギーをどこまで増やすべきか

テーマ2 低炭素社会に向けたライフスタイルのあるべき姿

下図は、参加SHがフェーズ1において本フォーラムで議論すべきと考え提示したテーマ（60余りのテーマ）の総体を俯瞰した図であり、その後フェーズ2において選定された2つのテーマの位置関係を示したものである。



〈フェーズ1, 2を経て選定されたフェーズ3の討議テーマ〉

対話フォーラムフェーズ3では、この2つのテーマの下に本格的なSH間の徹底討議を行い、「意見構造の明確化」を行うことを目標として実施した。2つのテーマは、気候変動問題における最も根源的かつ非常に広範な領域を対象とし、相互に複雑に絡み合っている。各テーマそれぞれについて議論をどのように深めていくのか、また、密接に関連する領域や課題群との関係性をどのように関連付けて議論を進めていくのが検討のポイントとなった。また徹底討議を通じて、日本のこれまでの政策形成プロセスにおいて素通りされてきたSH間の「意見構造の明確化」の段階まで、討議を到達させることができるのかどうか最大の挑戦課題である。

なお、対話フォーラムフェーズ3におけるSH間の議論は、「その成果を広く社会

に発信し、国民的議論を喚起し、ひいては公共的意思決定にとって有用な参照情報となる、という想定を、参加者（SHおよび主催者）が共有して実施する」ということを共通認識として実施してきた。また、ここで言う「意見構造の明確化」とは、「SH間の議論の一致点及びその前提要件、SH間で議論の一致を見ない点についてはその背景や理由を明確化する議論を行うこと」として議論を進めている。

以上のような認識のもと、平成23年度においては、次のような実施項目について研究活動を実施した。

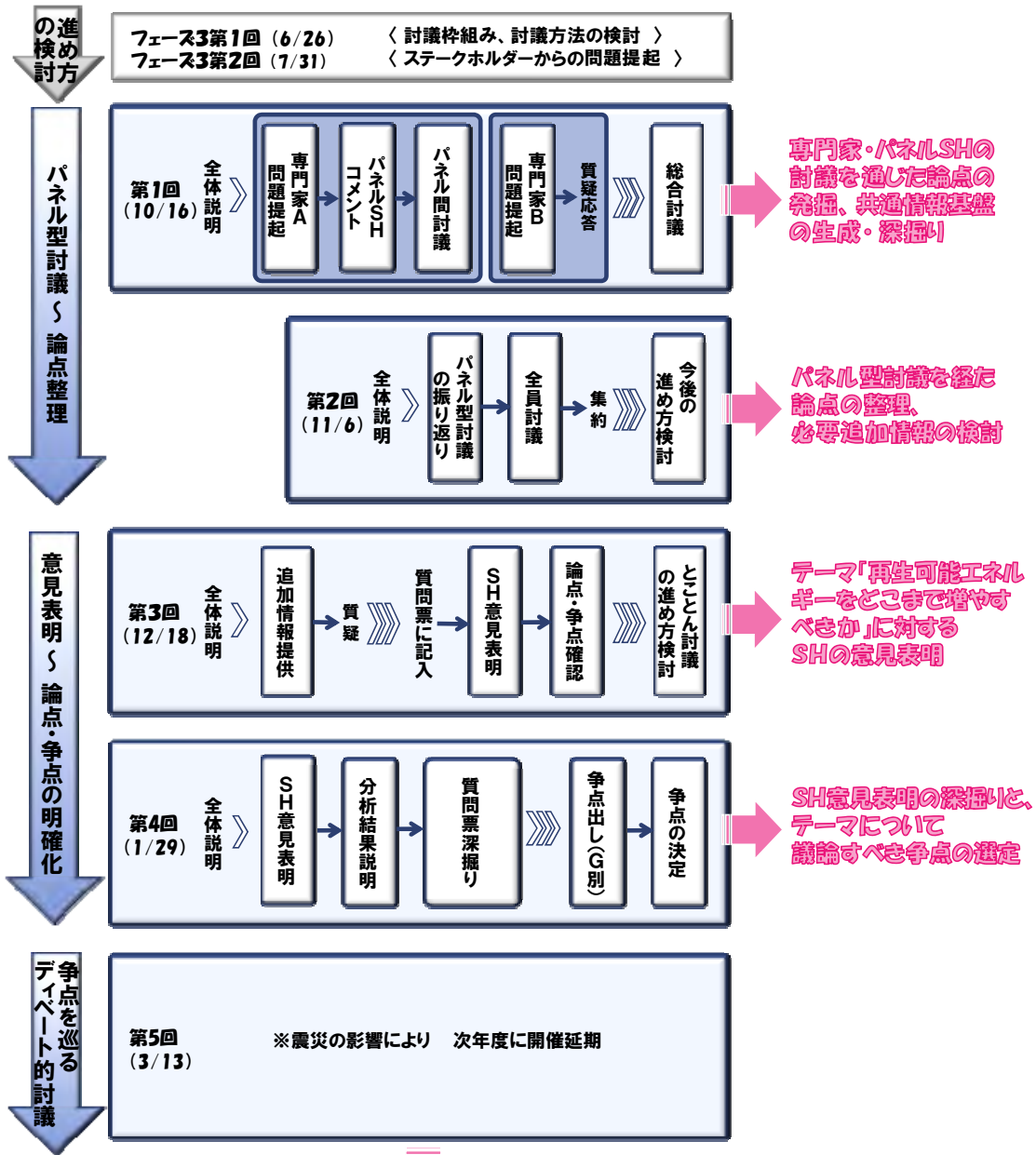
社会実験研究「対話フォーラム」の運営・実施

- ①対話フォーラムの開催及びその運営管理（政策・制度/実装戦略研究グループ）
- ②科学とSH間及びSH間の応答を通じた社会的意思の形成に資する仲介機能の検討と提案（政策・制度/実装戦略研究グループ）
- ③対話フォーラムにおいて利用可能な方法論・ツールの検討（対話方法論研究グループ）
- ④対話フォーラムの方法論的妥当性の評価（対話方法論研究グループ）
- ⑤「地球温暖化問題」という多様で独自性のある問題構造を考慮しながら、社会的実装ツールにおける科学者の役割を考察するための研究(政策対話の実装に向けての科学者参加の研究グループ)

今年度フェーズ3を迎えた「対話フォーラム」においては、フォーラムの運営・実施について検討するフォーラム運営委員会（各研究グループのコアメンバーで構成）を恒常的に実施し、フェーズ3の2つのテーマ討議全体、及び各回の会議に対する方法論・ツール・情報生成・注入等について検討・実施した。

テーマ1「エネルギー供給のあり方：2050年に再生可能エネルギーをどこまで増やすべきか」、及びテーマ2「低炭素社会に向けたライフスタイルのあるべき姿」は、次のような会議プロセスで実施した。

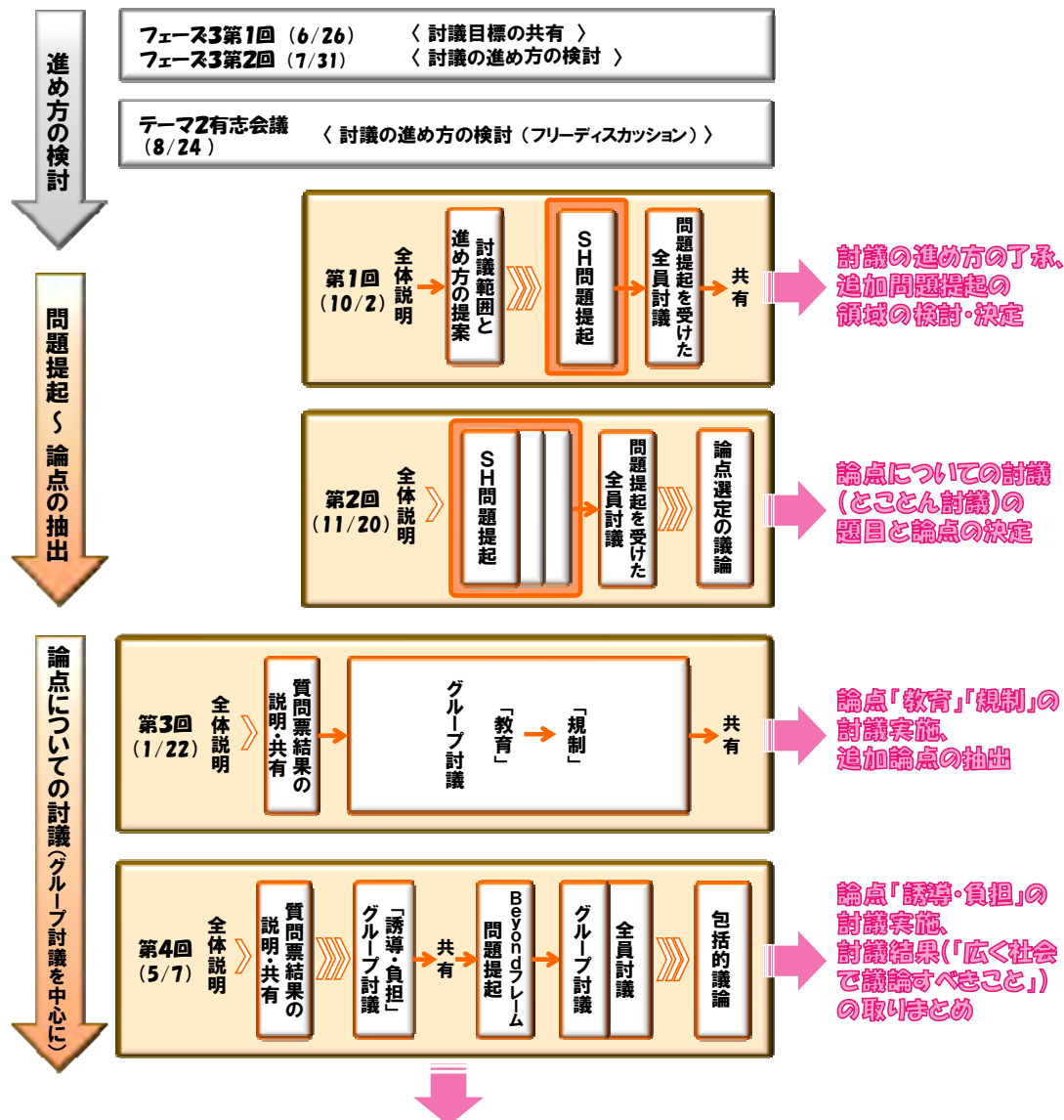
テーマ1 「エネルギー供給のあり方：2050年に再生可能エネルギーをどこまで増やすべきか」



「2050年に再生可能エネルギーをどこまで増やすべきか」討議結果の取りまとめ

〈対話フォーラムフェーズ3・テーマ1の進行フロー〉

テーマ2「低炭素社会に向けたライフスタイルのあるべき姿」



「低炭素社会に向けたライフスタイルのあるべき姿」討議結果の取りまとめ

〈対話フォーラムフェーズ3・テーマ2の進行フロー〉

テーマ1は最終回の第5回会議を残すのみ、テーマ2は年度内に全4回の会議を終了している。各テーマともに、次年度にかけて、数名の参加SH（各セクターのバランスに考慮）で構成する「起草委員会」を立ち上げ、報告書草案の作成に向けて討議結果を取りまとめていくことを予定している（各テーマとも、全回終了時に参加SHで取りまとめ方針を検討・決定）。次年度、6月頃をめどに報告書を取りまとめるとともに、引き続き「対話フォーラム」の事後評価等へと展開していくことになっている。

熟慮と対話に基づく社会的意思の形成のための場・機能の開発に資する研究活動
 各研究グループの研究の調整・連携の場として実施する研究推進委員会を開催し、

平成23年度に本格的に着手する対話フォーラムの検証・評価に向け、必要な検討・調査を行った。具体的には、次のようなものが挙げられる。

⑥欧米における市民参加プロセス研究（政策・制度/実装戦略研究グループ）…フランス「環境グルネル会議」（国民参加・協議プロセスの組織化・実践）、フランス・スティグリッツ委員会等の新政策策定におけるSH討議方式の導入事例、デンマークDBTの最新動向の把握調査等の開始。

⑦我が国の政策・戦略策定における参加プロセス研究（政策・制度/実装戦略研究グループ）…特にCOP3における日本提案の策定プロセス、麻生政権下における中期目標の策定プロセス、民主党政権下における気候政策の策定プロセス等に着目し、政府、審議会等における政策形成、参加プロセスの現状の把握、我が国の環境政策を中心にみた市民参加の系譜分析（理念～現状分析）に着手。

⑧政策形成プロセスに対する新しい参加システムの実装事例研究（政策・制度/実装戦略研究グループ）…既存の社会的対話機能の実装事例・仕組みに関するレビューや、実験的ツールの社会実装に関する事例研究の準備作業に着手。

⑨対話方法論・ツールの開発並びに評価の在り方に関するシステム論的、政策科学的検討（対話方法論研究グループ）…対話フォーラムフェーズ3各回における参加者アンケート設計や、グループダイナミクス研究等でも用いられている多次元尺度構成法をはじめ、評価グリッド法、Q方法論等、SH間の意見構造の明確化に資する方法論、及び対話の効果測定における利用可能性も含めて必要な調査・比較検討の実施。問題状況や参加者特性等に応じて複数の対話方法論の適切な組み合わせの検討に資する、J.ミンガーズらマルチメソドロロジーの研究等のレビューの実施。問題状況と参加者特性との関連で捉える「システム方法論のシステム（SOSM）」及びソフトシステムズアプローチのCATWOEを援用した枠組みにおいて、科学的不確実性の高い問題に対する類似のSH参加事例分析。

上記の研究活動については、平成23年度に実施する「対話フォーラム」の評価、及び対話の場・機能の提案・実装に資するべく、引き続き実施していく。

※本研究開発プロジェクトを巡る状況の変化と対応

本研究開発プロジェクトが構想されたのが、2007年であった。その直後にIPCC第4次報告書が提示され、COP13でポスト京都議定書の交渉の方向付けを行ったバリロードマップが採択されたのが、同年末である。その後の3年有余の気候変動問題を巡る政治／政策展開の動きは、内外ともに想像を絶する速さであった。長期的なGHGの大幅削減は、すっかりと世界政治において共通認識となった。

本研究開発プロジェクトは、実際の国際政治交渉や利害調整の軋轢や影響を受けない場面設定を前提にしつつも、できるだけリアリティのある議論展開が必要である、ということ意識したぎりぎりの選択を行った結果として、「長期的なGHGの大幅削減」を課題対象に据えた経過がある。そして2009年6月、本プロジェクトの中核を為す「対話フォーラム」（ステークホルダー会議）は出帆をした。

しかし、現実社会の大波は“フォーラム丸”を簡単に呑み込んでしまった。

具体的テーマを設定してのフェーズ3の本格討議について、ある程度のリアリティを持ちながらも、仮想場面の設定での議論を前提として開始したが、今回の東日本大震災、及び福島第一原発事故に伴い、テーマ1「エネルギー供給のあり方：2050年

に再生可能エネルギーをどこまで増やすべきか」及びテーマ2「低炭素社会に向けたライフスタイルのあり方」という2つのテーマは、いまや日本社会が現在直面する最も緊急性の高いリアルな問題ではないか。

原発事故や計画停電などを契機として、気候変動問題についての議論が勝手に独り歩きを始める気配があり、しかも、それぞれのステークを有した者達による自分達の主張に有利なように原発事故等を関連づけた議論や、緊急事態への対応の中でやや感情的な議論が横行しがちな気配が感じられる。

今こそ、本研究開発プロジェクトがこの間追求してきた熟慮と対話をベースにした社会的意思の形成こそが求められていると確信する。そしてこの熟慮と対話の結果が広く社会に発信され、国民的議論を喚起し、ひいては公共的意思決定にとって有用な参照情報とすることの重要性を痛感する。しかも、今回SHが選択したテーマが、まさに今、我が国において「本番」で求められている焦点となるテーマそのものであることに驚くとともに、近い将来、このような対話の本番として開催されなければならないと、責任感すら覚えるところである。

(4) 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2010年 3月31日 ～5月27日	個別ヒアリング	東京・千代田区 上智大学、 各SH勤務先他	フェーズ1～フェーズ2の評価、フェーズ3の進め方に関するSH（全28名）に対する調査票調査。
2010年 4月22日	研究推進委員会、 フォーラム運営 委員会合同会議	東京・千代田区 上智大学	年度研究計画の確認と各研究グループからの報告、対話フォーラムフェーズ3についての骨格検討。
2010年 5月13日	研究推進委員会、 フォーラム運営 委員会合同会議	東京・千代田区 上智大学	対話フォーラムフェーズ3基本方針、 5/28準備会合の企画検討。
2010年 5月17日	研究者総会	東京・千代田区 上智大学	年度研究計画の確認、対外発信、シンポジウム企画等について検討。
2010年 5月19日	第4回 第三者委員会	東京・千代田区 上智大学	フェーズ1・2の結果報告に基づく評価・議論、年度方針、対話フォーラムフェーズ3対応方針案の報告・討議。
2010年 5月27日	研究推進委員会、 フォーラム運営 委員会合同会議	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3に対する各研究グループの観点からの討議、5/28準備会合進行についての検討。
2010年 5月28日	対話フォーラム フェーズ3 準備会合	東京・千代田区 上智大学	個別ヒアリング結果報告、フェーズ3の進め方案の提案、SH間、及び主催者/事務局との間での意見交換。
2010年 6月10日	研究推進委員会、 フォーラム運営 委員会合同会議	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3の進行に関する基本方針の決定、フェーズ3第1回会議（6/26）の進め方についての検討。

2010年 6月26日	対話フォーラム フェーズ3 第1回会合	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3の方針、テーマ1・テーマ2 の討議進行方法の検討、了承。
2010年 7月1日	研究推進委員会、 フォーラム運営 委員会合同会議	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3第1回会議（6/26）の結果総 括、テーマ1・テーマ2の進め方の詳細 検討。
2010年 7月15日	研究推進委員会、 フォーラム運営 委員会合同会議	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3第2回会議（7/31）における テーマ1・テーマ2の討議方針、会議進 行に関する打合せ。
2010年 7月31日	対話フォーラム フェーズ3 第2回会合	東京・千代田区 上智大学	テーマ1：SHからの問題提起と議論、 討議方針の具体的検討。テーマ2：討 議の枠組みと進め方の検討。
2010年 8月5日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3第2回会合（7/31）の振り返 り、テーマ2の討議の枠組みと進め方 について検討。
2010年 8月12日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ2の討議の枠組みと進め方につ いて検討。
2010年 8月23日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3第2回会合（7/31）の振り返 り、テーマ1の具体的な会議設計につ いて検討
2010年 8月24日	対話フォーラム フェーズ3テー マ2有志会合	東京・千代田区 上智大学	テーマ2の進め方、討議方針案の検討 における、SH有志の意向把握。 SHからの問題提起についての検討。
2010年 9月13日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ1・テーマ2の準備進捗状況、参 加SHを対象とした質問票の設計、テ ーマ討議開始にあたっての打合せ。
2010年 9月16日	ファシリテータ ーミーティング	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3テーマ2の準備状況の共有、 全体設計案、及びテーマ2第1回会合 （10/2）の進め方の検討。
2010年 9月24日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ2の全体設計、テーマ2第1回会 合の進め方、参加SHに対する事前準 備作業等についての打合せ。
2010年 9月27日	第5回 第三者委員会	東京・千代田区 上智大学	フェーズ3テーマ1・2の討議方針等経 過報告、フェーズ3での第三者委の観 察・評価の視点についての議論。
2010年 10月2日	対話フォーラム フェーズ3テー マ2第1回会合	東京・千代田区 上智大学	「ライフスタイル」の討議対象領域の 俯瞰、議論の枠組についての認識共 有、SHからの問題提起①と議論。
2010年 10月12日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ1第1回（10/16）の会議設計に ついての検討。専門家資料、基礎資料 等準備状況の確認。

2010年 10月16日	対話フォーラム フェーズ3テーマ1第1回会合	東京・千代田区 上智大学	パネル型討議の実施（専門家、パネルSHを中心とする、再生可能エネルギーの論点の深掘り、問題提起等）
2010年 10月28日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ2第1回（10/2）、テーマ1第1回（10/16）の結果の振り返り、次回会議の方針、準備作業等の検討。
2010年 11月2日	ファシリテーター ミーティング	東京・千代田区 上智大学	テーマ2第1回会議（10/2）の振り返り（グループ討議結果分析）、次回会議（11/20）の進め方についての議論。
2010年 11月6日	対話フォーラム フェーズ3テーマ1第2回会合	東京・千代田区 上智大学	パネル型討議結果の振り返りと議論（共通理解の醸成）、SH間討議に必要な更なる専門情報等の確認。
2010年 11月17日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ1第2回会議（11/6）で提起された更なる専門情報等の検討。テーマ2第2回会議（11/20）進行の検討。
2010年 11月20日	対話フォーラム フェーズ3テーマ2第2回会合	東京・千代田区 上智大学	SHからの問題提起②～④と、問題提起に基づく議論、とことん討議すべき論点の検討と抽出。
2010年 12月6日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ2第2回会議（11/20）の総括、とことん討議でとりあげる題目と論点に基づく今後の会議設計の検討。
2010年 12月8日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ1第3回会議（12/18）に向けた、情報提供の準備・検討、質問票の設計、及び会議設計の検討。
2010年 12月18日	対話フォーラム フェーズ3テーマ1第3回会合	東京・千代田区 上智大学	追加情報の提供。テーマ「2050年に再生可能エネルギーをどこまで増やすべきか」に対する全SHの意見表明。
2010年 12月28日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ1第3回会議（12/18）の結果総括、今後の会議設計。テーマ2第3、4回会議のとことん討議の方法検討。
2011年 1月11日	第6回 第三者委員会	東京・千代田区 上智大学	対話フォーラム実施状況の報告、及び本プロジェクトに対する第三者委員会の評価方針等に関する議論。
2011年 1月11日	研究者総会	東京・千代田区 上智大学	2010年度研究実施状況についての各研究グループからの報告、2011年度の研究計画についての検討。
2011年 1月13日	対話フォーラム テーマ1フォローアップ会合	東京・千代田区 上智大学	テーマ1の討議の経緯、提供情報の再説明等、SHのうち希望者に対するフォローアップ。
2011年 1月18日	ファシリテーター ミーティング	東京・千代田区 上智大学	テーマ2第3回会合（1/22）の会議設計、当日の進行詳細、及び役割分担等についての確認・検討。

2011年 1月22日	対話フォーラム フェーズ3テーマ2第3回会合	東京・千代田区 上智大学	「生活者の行動・態度の変化の原動力は何か」について、「教育」「規制」に着目した論点討議。
2011年 1月29日	対話フォーラム フェーズ3テーマ1第4回会合	東京・千代田区 上智大学	テーマに対する全SHの意見表明の深掘り討議、及び全体討議・グループ別討議を通じたテーマ争点の明確化。
2011年 2月10日	フォーラム 運営委員会	東京・千代田区 上智大学	テーマ1第4回会議の結果総括。争点の設定、ディベート形式の討議方法の検討。
2011年 2月14日	ファシリテーター ミーティング	東京・千代田区 四谷東急イン	テーマ2第3回会議（1/22）の結果の振り返り、及び第4回会議（3/5）の会議設計、質問票実施の検討。
2011年 2月25日	ファシリテーター ミーティング	東京・千代田区 上智大学	テーマ2第4回会議（3/5）の会議設計、追加情報提供の検討。テーマ2の討議結果取りまとめに向けた検討。
2011年 2月28日	ファシリテーター ミーティング	東京・千代田区 上智大学	テーマ2第4回会議（3/5）の進め方、当日の進行詳細の確認。テーマ2の討議結果取りまとめに向けた検討。
2011年 3月5日	対話フォーラム フェーズ3テーマ2第4回会合	東京・千代田区 上智大学	「消費者・生活者の行動変化の原動力は何か」、及びテーマ2の包括的議論、報告書のとりまとめについての検討。
2011年 3月13日 (延期)	対話フォーラム フェーズ3テーマ1第4回会合	東京・千代田区 上智大学	ディベート形式の討議実施を予定していたが、東日本大震災の発生に伴い次年度（2011/5/7）に開催延期。

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

特になし。

5. 研究開発実施体制

(1) 政策・制度／実装戦略研究グループ

[1] リーダー 柳下 正治（上智大学大学院地球環境学研究所）

[2] 実施項目

- ①研究の総合進行管理
- ②科学とステークホルダー間及びステークホルダー間の応答を通じた社会的意思の形成の可能性の開発研究
- ③科学と社会の応答、社会的意思の形成に資する仲介機能の検討と提案
- ④『低炭素社会づくり「対話」フォーラム』の会議運営

(2) 対話方法論研究グループ

[1] リーダー 田原 敬一郎 ((財)未来工学研究所政策科学研究センター)

[2] 実施項目

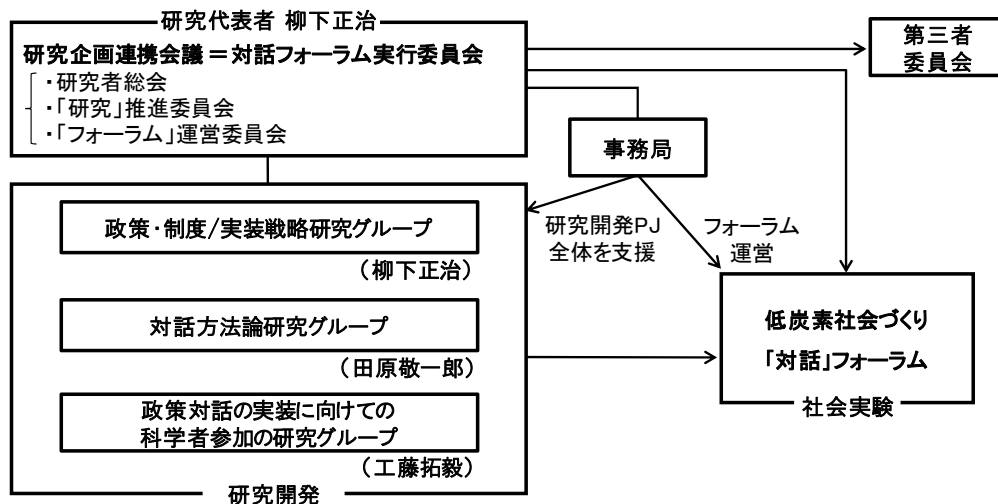
- ①科学とステークホルダー間及びステークホルダー間の応答の会議詳細設計の検討・開発
- ②会議設計に必要な調査・研究の実施
- ③設計の妥当性を検証するための評価基準等の検討
- ④『低炭素社会づくり「対話」フォーラム』の会議運営支援

(3) 政策対話の実装に向けての科学者参加の研究グループ

[1] リーダー 工藤 拓毅 ((財)日本エネルギー経済研究所地球環境ユニット)

[2] 実施項目

- ①複数領域の科学者／専門家による研究の結集によるGHG大幅削減長期シナリオの作成研究



6. 研究開発実施者

① 政策・制度／実装戦略研究グループ

氏名	所属	役職
柳下正治	上智大学	教授
鬼頭宏	上智大学	教授
石川雅紀	神戸大学	教授
蟹江憲史	東京工業大学	准教授
山田修嗣	文教大学	准教授
鈴木政史	関西大学	准教授
尾内隆之	流通経済大学	専任講師
平尾桂子	上智大学	教授
塚原東吾	神戸大学	教授

水沢光	上智大学	ポストドクター
濱田志穂	上智大学	ポストドクター
山田岳之	上智大学	リサーチアシスタント
小林綾子	上智大学	リサーチアシスタント

② 対話方法論研究グループ

氏名	所属	役職
田原敬一郎	(財)未来工学研究所	研究員
高橋真吾	早稲田大学	教授
川島啓	(財)未来工学研究所	主任研究員
杉森伸吉	東京学芸大学	准教授
大竹裕之	(財)未来工学研究所	研究員
濱田志穂	(財)未来工学研究所	研究員

③ 政策対話の実装に向けての科学者参加の研究グループ

氏名	所属	役職
工藤拓毅	(財)日本エネルギー経済研究所	ユニット総括
和田謙一	(財)日本エネルギー経済研究所	研究員
柳美樹	(財)日本エネルギー経済研究所	研究員
赤井誠	(独)産業技術総合研究所	主幹研究員
西岡秀三	(独)国立環境研究所	特別客員研究員
藤野純一	(独)国立環境研究所	主任研究員
岩淵裕子	(独)国立環境研究所	アシスタントフェロー

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. シンポジウム等、対外的な情報発信

特になし。

7-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

JST研究開発プログラム「科学技術と社会の相互作用」 研究開発プロジェクト 政策形成対話の促進 長期的な温室効果ガス(GHG)大幅削減を事例として 低炭素社会づくり「対話」フォーラム、<http://www.sh-forum.net/index.html>、2009年6月

7-3. 論文発表（国内誌 0 件、国際誌 0 件）

7-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

① 招待講演（国内会議 4 件、国際会議 1 件）

○柳下正治（上智大学）、「COP15の苦悩を次なる飛躍の出発点にするために」、環境プランニング学会春季学術講演会、東京大学、2010/04/18

○石川雅紀（神戸大学）西岡秀三（(独)国立環境研究所）、「Promotion of Dialogue for Policy Making: Case of the long-term significant reduction in Green House

Gases emissions」、LCS-RNetベルリン会合、ベルリン、2010/09/20-21

○石川雅紀（神戸大学） ジェルジ・セール（University of Osnabruck）、「政策形成対話の促進：長期的な温室効果ガス(GHG)大幅削減を事例として」、「科学技術と人間」研究開発領域研究開発プログラム「科学技術と社会の相互作用」第3回シンポジウム『Science in Society -a challenge in Japan』、アキバホール、2010/08/24

○田原敬一郎（(財)未来工学研究所 研究員）、「対話のシステム方法論－状況とステークホルダーの多様性への多元的アプローチ」、第28回横幹技術フォーラム、文京シビックセンター、2010/10/4

○田原敬一郎（(財)未来工学研究所 研究員）、「政策科学とSTS－日本における「科学技術イノベーション政策のための科学」論議を巡って」、第7回サイエンススタディーズ研究会、東京大学、2010/11/12

② 口頭講演 （国内会議 0 件、国際会議 0 件）

③ ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

①新聞報道・投稿

日付：2010/06/23

新聞・雑誌名：環境新聞

コラム名：オピニオン

タイトル：「選挙の争点:温対基本法案」

執筆者：柳下正治

日付：2010/07

新聞・雑誌名：「生活と環境」第55巻第7号

コラム名：あかりまど

タイトル：「平時の大改革」

執筆者：柳下正治

②受賞

特になし。

③その他

特になし。